

2022（令和4）年度 小学校社会科教育推進事業実施要項

1. 目的

- 小学校4年生で学ぶ「二ヶ領用水の学習」について、当館の資料等を活用して児童の理解を深める。
- 二ヶ領用水の工事を行った時代に使われた道具の復元資料を用いた体験学習を行い、川崎の歴史や成り立ちへの興味・関心を喚起する。

2. 実施期間・時間

令和4年7月～令和5年3月末

3. 実施内容…下記のうち希望する内容がありましたらお申込みください ※詳細は別紙参照

① 出張授業

二ヶ領用水の成り立ちや変遷、工事や改良に携わった人物について、画像や模型を用いて説明します。

また、二ヶ領用水の工事に使われた道具の復元資料を用いた体験学習を行います。

※下記は一例です。具体的な内容は学校の希望に沿って対応します。

【内容】

○二ヶ領用水はどのようにして作られたか理解する

- ・二ヶ領用水はいつごろどのような目的で作られたのか
- ・二ヶ領用水を作ったのはどのような人か
- ・多摩川の水はどのようにして二ヶ領用水に取り入れられたのか
- ・もっこ担ぎ体験・蛇籠にさわる体験

○二ヶ領用水の概要を理解する

- ・分量樋・円筒分水はどのような仕組みか
- ・二ヶ領用水が完成してから現在まで、どのような変化があったのか

② 体験グッズ（もっこ・クワ・箕・蛇籠）の貸出

二ヶ領用水の工事で使用したものと類似する形の農具や、二ヶ領用水に多摩川の水を流す際に利用した蛇籠の復元資料を貸し出します（サイズが大きいため配送ができません。受取と返却の際はミュージアムにご来館をお願いいたします）。

③ 「二ヶ領用水ワークブック」送付

二ヶ領用水の歴史についてまとめたワークブックを希望数送付します。

※出張授業または体験グッズ貸出に申し込んだ学校にもお送りできます。

【出張授業】

期 間：2022年7月～2023年3月（先着順）

場 所：申し込みのあった学校（体育館または教室など）

人 数：1回につき1～2クラス（60人程度まで）※応相談

授業時間：1回につき45分間

実施日時：月～金曜日 3時間目以降

申込期間：2022年6月1日（水）～12月20日（火）

※1～3月に希望する場合も、この期間内にお申込ください

内 容：教育普及担当・博物館部門担当の職員が学校を訪問し、二ヶ領用水ができるまで～完成後の活用について紹介します。用水を作る際に用いた道具（もっこの復元資料等）を担ぐ体験や、分量樋や円筒分水の仕組みについてお話しします。
※具体的な流れは次ページ以降をご覧ください。ただし、授業の進度や出張授業で重点的に学習したい点などをふまえて内容は変えることができます。お気軽にご相談ください。

備 考：①例年10～12月は申込が多く、9月下旬頃に予約が埋まります。

この時期をご希望の場合は早めにお申込みください。




②出張授業はワークブック送付との同時申込も可能です（体験グッズ貸出との同時申込はできません）。

新型コロナウイルス感染防止対策：児童が触る資料は授業後に消毒します。

出張授業の実施にあたりご心配な点がございましたら、お問い合わせください。

授業の流れ（例：歴史を全体的に学ぶ場合）

※体験学習の時間を多くとるなど、授業内容・時間配分は調整可能ですのでご相談ください※

時間	内容
(合計45分間)	〈ニヶ領用水ができるまで～完成まで〉
10分間	<p>1. ニヶ領用水とは…川と用水の違い・いつ、だれが作ったのか</p> <p>以下のような写真・イラストをスクリーンにうつしながらお話し</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ニヶ領用水は、だれが作ったの？</p>  <p>小泉次大夫(こいずみじだゆう)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ニヶ領用水の工事のようす</p>  </div> </div> <p>箕・鍬の実物を紹介</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
15分間	<p>2. 体験学習…もっこ(用水路を掘る時に使った道具)を担ぐ体験</p> 
10分間	<p>3. 水の取り入れ方法…完成したニヶ領用水に多摩川の水を取り入れる方法の説明・蛇籠に触る体験</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>川の水面を上げる方法②【蛇籠】</p>  </div>  </div>
10分間	<p>4. ニヶ領用水完成～現在…田中休愚・分量樋・平賀栄治・円筒分水について模型等を用いて説明 →最後に質問・感想を聞く時間を設けます</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>円筒分水を横から見たところ</p>  </div>  </div>

【体験グッズ貸出】

期 間：2022年7月～2023年3月（先着順）

内 容：ニヶ領用水の工事を行った時代に使われた道具（クワ・箕・もっこ）と、多摩川の水をニヶ領用水に流す際などに使われた「蛇籠」の復元資料の貸出を行います（職員による授業は行いません）。貸出の際は、それぞれの道具の説明や使用方法等を記載した解説用紙を同封します。

貸出方法：貸出・返却時の運搬は学校にお願いいたします。グッズが大きい（もっこを担ぐための棒：1.8m、クワ：1.3m、蛇籠：0.7m）ため、配送ができません。車等による運搬を推奨します。

貸出期間：1校につき1週間（※応相談）

道 具：蛇籠 クワ 箕 もっこ のうち希望するもの（4つ全ての貸出も可）

備 考：ワークブック送付との同時申込も可能です（出張授業との同時申込は不可）。

もっこ



クワ（下記の2種類のうち、いずれかひとつをお貸出しします。）



箕



蛇籠



【二ヶ領用水ワークブック配布】

期 間：2022年7月～2023年3月

内 容：二ヶ領用水ができるまでと、完成後の活用についてなどをまとめたワークブック（全10ページ程の冊子）を希望する学校にお送りします。※見本として1部同封します。

配布方法：学校へ郵送または館で直接お渡しします。

備 考：出張授業または体験グッズ貸出との同時申込も可能です。

《ページ例》

多摩川と二ヶ領用水

昔から、川崎の人々は飲み水やお米を作るために多摩川の水を使っていました。多摩川の水は「いのちの水」と呼ばれるほど大切なものですが、大雨が降るとすぐにあふれ、大切な家や田んぼを流してしまったりした川でもありました。

今から約400年前に、多摩川の近くに住む人々が苦労している様子を覚えて何とかしたいと考えたのが、小泉次大夫という人物でした。次大夫は、多摩川の水を公平に分けようにはどうすればよいか、水があふれないためにはどうすればよいかと考えました。そして思いついたアイデアが、多摩川から離れた場所まで水を流すための道、「二ヶ領用水」を築ることでした。

二ヶ領用水の流れているところ

小泉次大夫の像

どうやって作ったの？

二ヶ領用水を築く工事は次大夫がリーダーとなり、作業をしたのはまわりに住んでいる農民たちでした。

農民たちは、昔はお米や野菜を作るために使っている道具で、土を掘ったり石を運ぶといった作業を行い、約14年かけて完成させました。工事を始めたのは1597年、完成したのは1611年のことです。

Q 下の写真は、工事に使われた道具を再現したものです。それぞれ、どんな作業に使ったのかを形などから考えてみましょう。（答えは10ページ）

もっこ

答え

棒

答え

真

答え

水を公平に分ける装置「分量樋」

二ヶ領用水ができて川崎に水が行き渡るようになると、収穫できるお米の量が増えました。食べ物に困ることが減り、育てたお米を売るなどして人々の暮らしは豊かになったのです。

しかし、二ヶ領用水が完成してから100年程が過ぎると、用水路に土砂がたまったりして流れが悪くなる場所も出てきました。それを修理したのが田中休庵という人です。さらに休庵は、水を地域ごとに分ける「分量樋」という装置を考えました。「分量樋」とは、用水が流れる先の村に必要な水の量を調べ、村の順に合わせて用水の幅を調整したものです。

分量樋を上から見た図

田中休庵の肖像

Q 上の水路の中で、一番水の多い幅と少ない幅はどれですか？（答えは10ページ）

一番多い幅	【	】
一番少ない幅	【	】

分量樋ができてはならない、水の取り合い

分量樋ができて、水を公平に分けることができるようになりました。しかし、用水の量は平らではないため、水が少なくなると開闢の水路の水が少なくなってしまう。そのため雨が降らない時には、困った村の農民達が自分達の水を確保するために、他の村へ流れる用水をふさいでしまう、という事件が起こりました。これを「水騒動」といい、大切な水を奪いあう大きな争いになったのです。

水騒動の様子を書かれた古文書

Q 分量樋よりもっと公平に水を分けるには、どんなルールや装置があったらよいか考えてみましょう。

ルール

装置